

原子力リスク研究センター（NRRC） 第5回 技術会議 議事概要

1. 日 時：2015年4月20日（月）10：00～12：30

2. 場 所：電力中央研究所 大手町本部 役員大会議室

3. 出席者：（順不同、敬称略）

主査：横尾（NRRC）

委員：榎（北海道電力）、滝澤（東北電力、増子代理）、五十嵐・川村（東京電力）、名倉・仲村（中部電力、服部代理）、米原（北陸電力、高橋代理）、森中・大石・鈴木（関西電力）、岩崎（中国電力）、門屋（四国電力、山田代理）、馬田（九州電力、岡野代理）、石坂（日本原電）、大柿（日本原燃）、静間（電源開発）、野田（東芝）、今野（日立 GE）、佐治（三菱重工、河野代理）、倉田（原安進）、示野・座間・酒井・植田・金谷（NRRC）

オブザーバー参加：横山・尾本・友澤（NRRC）、浦田（電事連）

4. 議事概要

(1) 2014年度研究開発の成果について

NRRC より 2014 年度の研究成果について報告がなされた。

（産業界委員からの主な発言）

- NRRC ができたことにより、地震や津波と言った自然現象に関する研究について、土木建築の部門と原子力の機械・電気担当部門が一同に集まって議論する場ができるようになった。これからはこの分野の研究を横断的に進めていけると期待している。
- 研究成果が学会等の規格基準作りに上手く反映できるように、NRRC が主導的に関わって頂ける事を期待している。
- 外的事象のハザード評価に関して、不確かさをどこまで突き詰めるのかについては、この不確かさが機器側の信頼度、安全性向上対策の信頼度に対してどれくらいの感度を持っているかによると思う。そのため、機器側の影響評価を行う側とハザードの不確かさを分析する側の連携が重要であるので、そのような場を設けて進めてほしい。
- 津波脆弱性に関しては、津波の直接の衝突力評価と、津波が遡上して機器に与える影響の評価の両方が必要となる。これらの評価がばらばらに行われるということがないように、情報交換を密にして手法を一つにしていくような方向で進めてほしい。

(2) NRRC の運営状況について

NRRC より、運営状況について報告がなされた。

（産業界委員からの主な発言）

- 今年度の研究成果の公表は、国際会議等で発表する形が中心となるのか。

(NRRC 回答) 国際会議等での発表はもちろんであるが、それぞれの研究成果は電中研の研究報告書としてまとめ、ホームページで公開するとともに各社に送付する予定であるので、活用して頂ければと思う。

以 上